

筑波大学における福島浜通り地域の国際教育研究拠点への 参画について

資料2

筑波大学

アイソトープ環境動態研究センター長
恩田 裕一

- ・学長のリーダーシップの下に，大学として参画を希望
- ・アイソトープ環境動態研究センターを中心に，医学系の参画も希望
- ・筑波大学の教授をクロスアポイントに基づいて，一部のエフォートを浜通拠点へ（給与の総額が増えることが望ましい。）
- ・浜通り拠点の資金を元に，3部門（放射性物質環境移行国際研究部門，放射性物質環境汚染研究部門，放射性影響医学ラボ）の創設を希望
- ・学生の雇用に基づいた優秀な学生の確保

国際放射性物質環境移行 研究教育拠点



PI:
混合給与で参画



国際共同研究

浜通り国際研究拠点
世界中の環境放射性物質の陸域、海洋への影響にデータのアーカイブ化と解析を行うとともに、成果の国際発信を行う。

**世界トップレベルの
環境放射能汚染研究の推進と
国際的ネットワーク構築に貢献**

原発事故
影響評価

全国共共拠点認定：連携ネットワーク型拠点



データ共有、測器の共同利用、データベース利用
を通じ共同研究の推進と国際発信

国際研究部門 IAEA | IRSN | CERAD

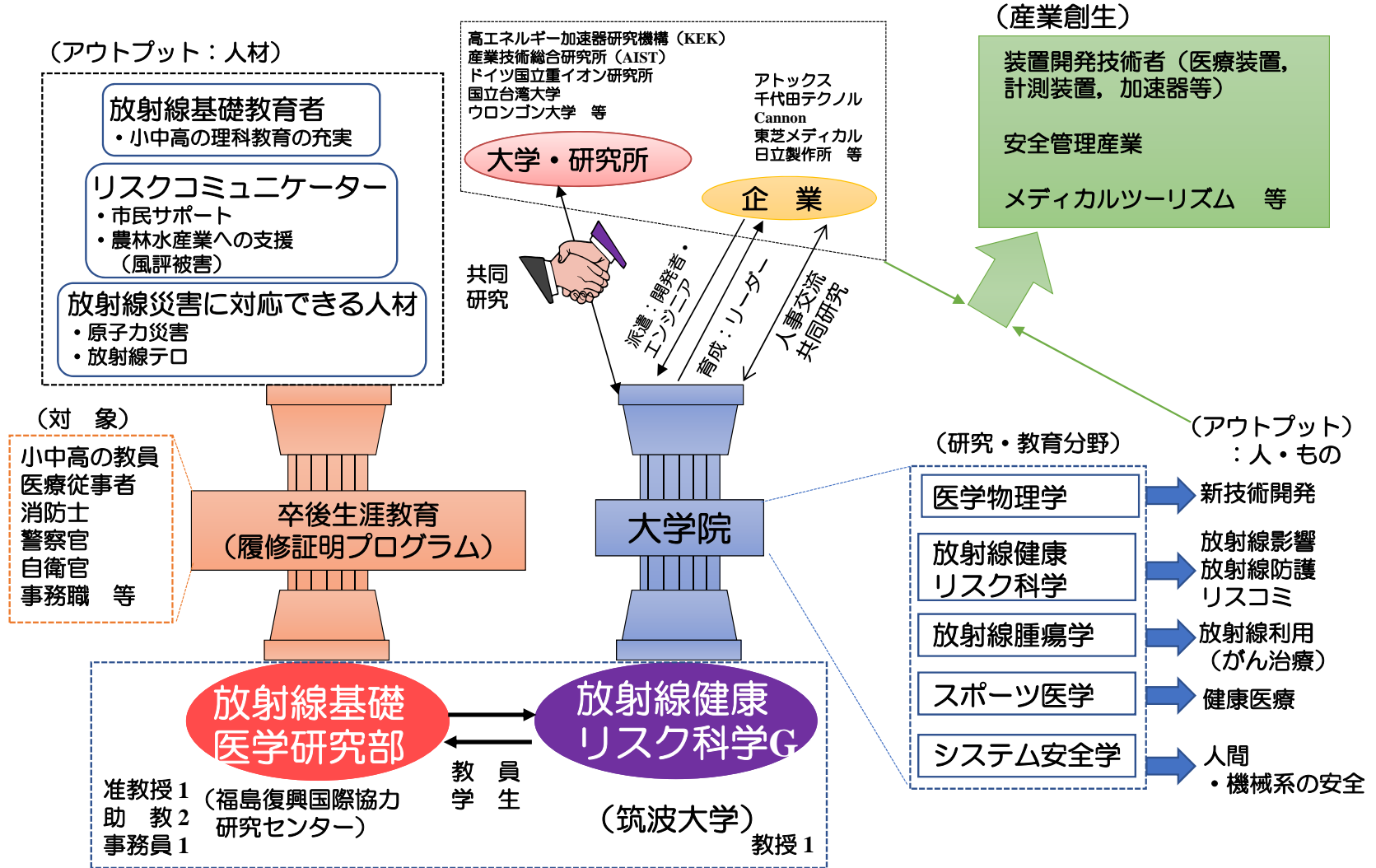
Gerhard Proehl (前 IAEA, Assessment & Management of Environmental Releases, Unit Head) ・現筑波大学客員教授
ほか、客員教授1、客員准教授1、助教1、サポートスタッフ1



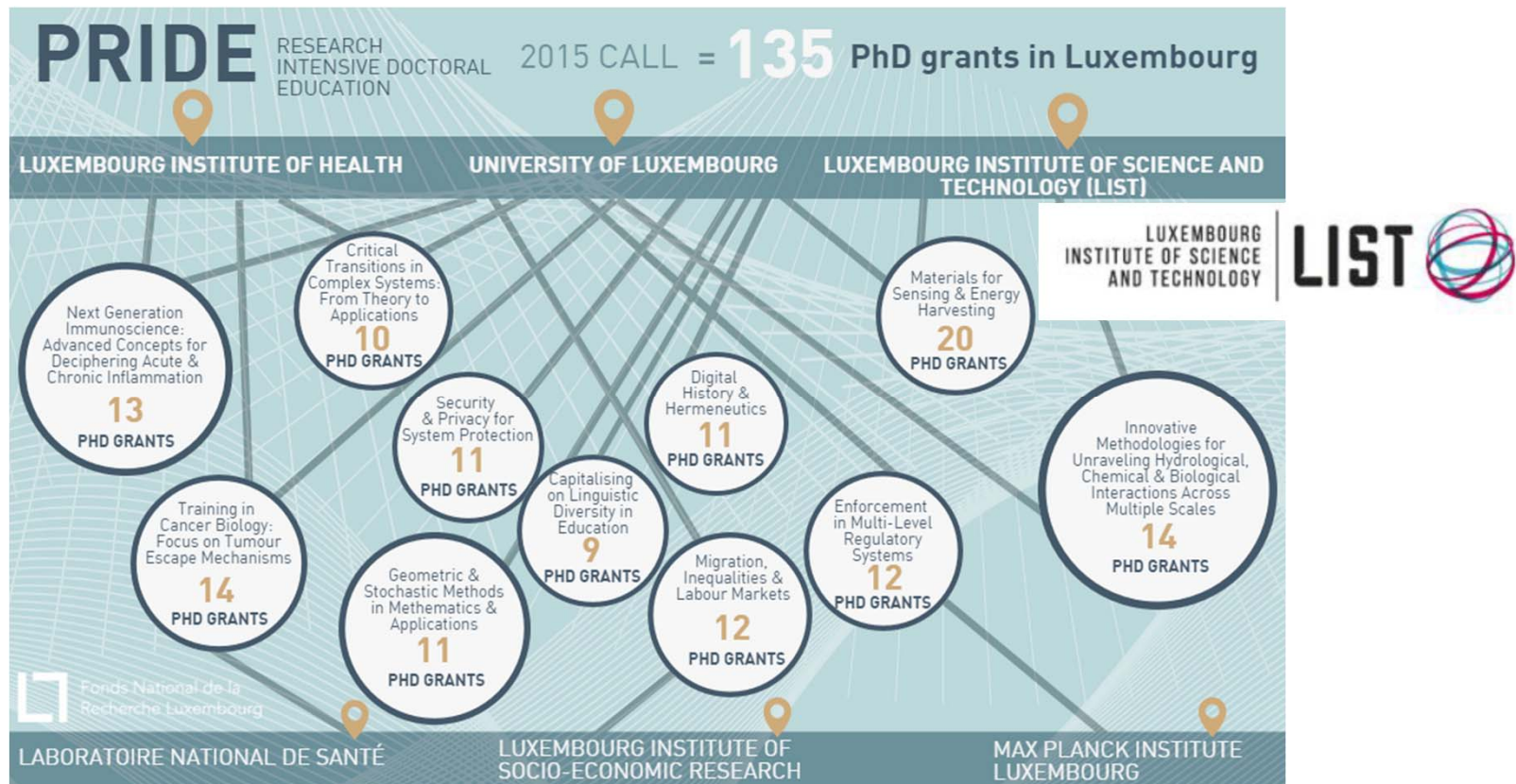
放射性物質環境汚染研究部門

* 教授1, 准教授1, 助教1, サポートスタッフ2
福島における放射性物質による環境汚染に関する現地調査をもとに、データアーカイブとデータ解析を強力に推進する

放射線影響医学研究ラボ



優秀な学生の確保；Luxembourgの例



- Employment contracts for all PRIDE PhDs <https://www.fnr.lu/funding-instruments/pride/>
- All PhDs funded through PRIDE will receive employment contracts with their host institutions – candidates can be funded for up to 4 years. Additionally, each PhD candidate can take advantage of training and mobility allowance of 6500 EUR, which can be used for e.g. courses, summer schools, and international conferences, throughout the duration of the doctorate.

LISTの場合は、1ヶ月給与2500EURO、学生はヨーロッパ各国の大学院に所属、LISTで研究をしているときだけ、サラリーが払われる。年間6500ユーロ交通費等支給。